

刊夕日十二月七

常盤宮日新聞

定額一圓五角 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 郵費在內 零售每份五分
 印刷部 電話六三〇〇
 發行部 電話六三〇〇
 編輯部 電話六三〇〇
 印刷部 電話六三〇〇

成住壞空

眞繼 雲山

善人亡びて、悪人榮ゆるといふ如き冠履顛倒の世態においてすら原則として善事を修せねば、先づ名譽は得られないのであるから人間が名譽を求むるといふ念慮は大いに是れあるがよい人生莊嚴の方便として佛が名譽慾といふものを人間にクツ付けておいたのである。左れど名譽で動く人間は名譽の附屬せぬ善事は努めないといふことになるから名譽を念とする者が本物でないことは言ふまでもない。金や命は結局墓場に捨て、ゆかねばならぬのであるから少しく悟つたものならば金や命の執着を断ち切るといふことは左まで難澁を覚ゆる問題ではあるまい、しかし死後にまでも残る善の名譽を捨て切るといふことは名譽に生る人間としての難中の國難事であらう。

いくばくの永久生をもち何程の價値を有するであらうか。

日本建國以來二千六百年世界歴史始まつて以來六千年その間に随分英雄豪傑も出た、高才偉人も多かつたしかし現在のわれわれに如實の價値として存し得るものはわれわれの心のうちに現に生きてゐるものだけである、この点において私は釋尊をはじめとして幾多の祖師高僧方が現に私たちに私たちの生きてゆく光りと力を與へてゐて下されたこと、あることに永存の生命を見るのである。

の釋尊の先見であるが最新の天文學も亦た地球が冷却固死して、やがて月の如くなり最後にこわれて仕舞うであらうことを肯定してゐる。

世を救ふための副産物として期せずして名譽のクツ附くのは別問題だが名譽を目的として得たところの名譽といふものは成住壞空の前には三文の價値も無きこと明らかである、佛法は因果律を本則とする、しかし善果を得んために善事を修するといふは甚だ功利的である、私は三世因果を信ずるものであり、また世間教としての佛敎が大衆指導の原理をそこに置いたことは當然と思えけれど佛敎とはそのやうな功利的、打算主義を教へたものでないことを確信する。

内科 小兒科 花柳病科

藤沼 醫院

入院 需應

平町紺屋町
電話五〇七番



三井質店

平町四丁目川岸
電話六〇六番

質物 一般

各種債券類

金 銀 高價買入ます

平町丸新デパート
假營業所

根本時計店

平町新川端(釜屋新宅向)

醫學博士 難波 睦

電話五〇二番

吉田眼科病院

平町屋町 電話六八番

季節御料理

柳川 一人前 金二十五錢

うな井 金三十五錢

蒲燒 金五十五錢

右大々勉強出前迅速

◎滋養豊富! 風味美味!

是非一度御試食を

大蒲燒・鳥料理

壽司・折詰仕出し

魚 榮

田町(電話四二四番)

川本 山 本場新茶入荷

一斤に付 四〇より 一、〇〇まで

新家庭用ほうじ茶

斤 六〇 四半斤 一五錢

斤 四〇 一〇錢

御家庭用 京清水焼 御前茶器 番茶器 組三〇錢

在荷豊富

香味本位の本場銘茶を

召上りませ

電三九六番

大勝園

番首

専門 産科 婦人科 花柳病科

◎入院應需

井坂 醫院

平町田町 電話五五九番

殺人的の天候

受難の氷屋さん

舊盆を當てに待機中か

半數に満たぬ營業出願

梅雨がくづれた様なこの頃のぐづいた天候にサラリマンは白服と白靴を出したりひつこめたり、氷屋さんは書入をフイにしてしまふと大こぼし、當にならぬ天氣豫報を氣にしながら「舊盆迄には何とかなるだらう」と待機してゐるが平署に本日まで出願した氷水營業者は未だ二百六十八名に過ぎず昨年の六百餘名に對し半數にも満たぬミツメさである。

財界動搖の

影響を惶れ

平町銀行業者に 伏見町長が注意

豫防技手補助 石城
蓄産馬組合では既報傳染性血貧症豫防の爲め技術員の旨の通牒があつた

増加を圖つたに對し十九日付を以つて農林省より八百二十圓の獎勵金を交附する旨の通牒があつた

平町各銀行従業者中には自行の預金減少を防止せんが爲め故意に他行の中傷を爲さんとする向もある模様であるが其結果引いては財界動亂の影響を引き起す因となる懼れがある爲め平町役場にては伏見町長の名を以つて近く銀行主腦者に對して注意書を發する由

急告

左記各號の「常磐毎日新聞」

相當代價にて譲受け度し お持ちの方は御一報を乞ふ。 姓名在社 年月日(夕刊) 號 數

昭和三・八・八	一三七九
同 三・八・一	一三八一
同 三・八・二七	一三九五
同 四・一・一	一四八九
同 四・四・九	一五六六
同 四・四・一五	一五七一
同 四・六・二八	一六三一
同 四・六・二九	一六三二
同 四・一〇・一	一七一六
同 四・一一・一六	一七七〇

木炭業

座談會

行詰り打開

濱三郡木炭同業組合では一般市況不振の爲め販賣及び移出共極度に減少して居り殊に夏枯れ時に入るの爲め一層營業の行詰りを見る模様なので同組合では来る廿四日午前十時、團體事務所

樓上に販賣業者約七十餘名を招集不況対策の座談會を開催する事になつた

磐中補充教育

磐城 中學校にては来る二十三日より十日間一學期成績不良生徒百八十餘名に對し英語漢文、數學等の補充教育を行ふと

久慈氏歓迎

マルトモで

既報磐城中學校野球部のコチとして來平した北海道大洋俱樂部主將久慈次郎氏の歓迎會は本日午後七時より丸友ホールにて行はれる

泣き面に蜂か

野菜畑に害虫

農家悲鳴を擧ぐ

石城郡上下小川及び赤井等の農家では最近野菜其他の農作物に害虫發生し野菜等は忽ち喰ひ荒される始末に是れが驅除に躍起となつて居るが農作物安値の上に害虫の發生で農家ではいづれも非鳴をあげて居ると

宮城課長出發

平税 務署庶務課長宮城徳丸氏は今回郡山署庶務課長に榮轉したので来る廿五日午前八時五十分平發列車にて赴任すると

平消防組野球部

郡山に急行應援

磐中と平商に氣勢を添えて

平消防組野球部にては縣下中等學校野球大會出場の磐中及び平商選手應援の爲め鈴木小頭、佐川小頭、織田伍長以下廿餘名自動車を飛ばして郡山市に赴く事を決定した

兩校選手

宿舍決定

縣大會の

磐城中學校平商業學校兩校

- △磐 中
- △庭球部 保原新今旅館
- △平 商
- △庭球部 郡山布袋屋
- △野球部 郡山布袋屋

貸切は...

セダン揃ひで

貸切専門の

昭和タクシーへ

電話三四三

預金には税金がかゝりません

御子様の爲めに貯金

平町田町(新道通り清水醫院跡)

福島貯蓄銀行

支店

電話三〇八番

預金と拂出し御融通も懇切御利を旨として月掛貯金には集金人が伺ひます

傘日とルソラバ

美影點の傘日とルソラバ・頭街の日麗

平 四 ツ ヤ ル 電 一 〇 四

役場手占する

何處の者とも判らない

行路病人が收容中死亡

昨十九日午後四時頃平町五丁目地内に五十才位の勞働者が行倒れて居たのを平町役場が行路病人として引取つた處間もなく絶命した爲め姓名は勿論何處の者とも判らず困つて居る、死因は榮養不良による心臓麻痺の結果である

△五學年 外村武夫(富岡) 永山忠男(内郷)武田善之助(好間)佐野榮治(好間) 緑川莊吉(田入村)

第二職員慰勞 平第二小學校職員一同は来る二十五日新舞子へ清遊すると

珠算競技の入賞兒氏名

既報昨日の平第二小學校珠算競技會各學年の入賞者は左の如くである

尋常科 (五年)清水正恵 石井美智子 鯨岡富子 飛田ソヨ 山部美枝子 正木千鶴(六年)大坂フサ 馬目富代 横田梨 芹澤節子 松本節恵

平商生の成績発表

優良者氏名

平商業學校にては本日午前八時全校生徒の一學期中の成績発表あつたが各學年の優良者一番より五番迄左の如くである

△一學年 加澤貞男(江名) 西山馨(平)黒川壽三(江名) 渡邊迪之(玉川)鈴木二郎(内郷)

△二學年 大高正己(内郷) 内海實(好間)齋藤一夫(同)岡田彦太郎(平)根本輝雄(平湯)

△三學年 木幡八十八(原ノ町)鈴木正六(湯本)草野忠悟(内郷)緑川泰次(平)木田英夫(同)

△四學年 榎石勇助(内郷) 四家肇(湯本)山田正直(飯野)吉田静磨(平)長瀬修造(平)

今晚の部
後六、〇〇 子供の時間
お話「鐵眼禪師」下田一喜
後六、二〇 コドモの新聞
村岡花子
後六、二五 カレントトビ
ツクス、ハロルドパーマ
後七、三〇 講演
後八、〇〇 獨唱と管絃樂

今晩は南よりの風曇り明日は南の風晴れたり曇つたり夕刻には夕立氣味

ユース 氣象通報
明日の部
前九、一〇 料理談話「鮎の根生婆」朝倉長吉
前一〇、三〇 家庭講座「兒童舞踊」花柳珠實
仲泰、北村幸美子
後一〇、〇五 講演「肉附の面」桃川燕林
後二、〇〇 婦人講座「暑中休暇中の女學生」嘉悦孝子
後六、〇〇 子供の時間
「正直な善助」奈良島知重
後六、二〇 コドモの新聞

村岡花子
後六、二五 カレントトビ
ツクス、ハロルドパーマ
後七、三〇 講演「電氣の話」仙臺通信局監督課長 高木正定
後八、〇〇 ラヂオドラマ「港の灯」北村喜八外
後八、四〇 小唄「夏の雨」堀小滿孝外
後八、五五 連續浪花節「夕立勘五郎第二席」木村友忠
後九、三一 滿洲より「滿洲國政府の現状」關東軍司令部付堤雄平

第一校各學年成績考查結果
既報平第一小學校にては去る十二日より三日間尋常科第二學年生以上に対し考查試験を施行したが成績平均

尋常科 讀方 算術 雜問
尋二 八五 八九
三 九〇 九〇
四 八七 八六
五 七九 八五
六 八三 八三
七 八三 七八
八 六二 七八
九 五八 五六
一〇 六五 六〇
一一 六四 六四

前科三犯の白米泥棒捕る

昨十九日午後一時頃石城郡神谷村字水前樋口喜太郎方家人の不在中白米一俵を窃取せんとした男あつたのを近所の者が取押へ駐在所に突出したので平署に押送取調べの結果同人は宮城縣勝田郡白石町字番町生れ窃盜前科三犯の高橋勝藏(三三)と稱し昨年九月福島刑務所を出て各地にコソ泥を働いて居たものである

體操演習批評 平第二小學校にては来る二十五日午前七時半より全校生徒の體操演習會を催し終つて批評會を開くと

海人草服用後 既報磐城高等女學校にては去る十八日より二週間四年の組及び運動部選手百七名に對し海人草を服用せしめ磐城共濟病院に於て顯微鏡検査を行つたが結果は左の如くである

第二校童話會 平第二小學校にては明日二十一日午前八時より尋常科第三學年以上の童話會を催すが花澤、林兩先生の童話がある

漂然と食事の心配迄 焼かせる求職者

平職業紹介所の最近に於ける紹介成績は不況の連續で益々求人希望者が減り去る十四日に一人十七日に二人十八日に一人、廿日に一人の申込みに対し求職者は去る十八日に八人、十九日十人等一日平均十人位宛申込みで来る結果就職率少なく同紹介所でも求人の開拓に頭を悩ましてゐるが求職者中には他縣から所持品すら持たずに漂然と來り就職が

窃盜犯の餘罪發覺

石城郡平窪村字曲田三五政吉長男小野政次(三三)は去る十八日同村渡邊多吉所有の畑より二回に亘つて十圓餘の野菜を窃取した事發覺十九日平署に檢舉されたが同

耐執行軍 平第一小學校にては明日二十一日豫定通り神谷、草野方面へ耐執行軍を行ふ

平職業紹介所報告
回求人部
△女中 十七才 尋卒 給
料面談(平町某)
△炊事婦 二十以下 尋卒
月五圓(中村町某)
△倉働 三十才前後 尋卒
月十圓(中村町某)
△回求職部
△配達 十八才 尋卒 給
料面談(磐崎村某)
△菓子工 二十三才 尋卒
給料面談(愛知縣某)
△染工職 二十四才 高卒
給料面談(箕輪村某)
△雜夫 五十九才 尋卒
給料面談(平町某)

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町
電話一七〇
上田外科醫院
平町南町
電話二一九番

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤 藤 紫 雲 畫

第一百六席

眞庭念流の達人櫻井五助

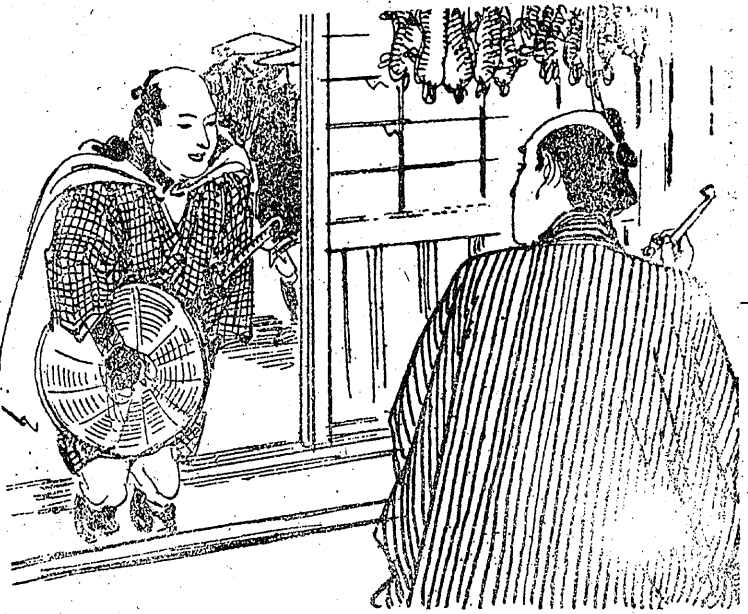
堅氣になるも親故

林藏は親父磯五郎と共に
久々に故郷の武州赤尾村
に戻つた、其内に磯五郎が
磯「林藏お前に話して置く
事がある」

林「何んだね、おとつさん
俺に話して置く事があると
は」

磯「今迄隠してゐたが、お
前を故郷に呼び寄せる事に
就いては秋山先生から猪之
松の阿袋に百兩贈り又俺は
石塔を建て阪戸の名主様源
右衛門さんもう一骨を
折つて下すつて無事に納め
たが猪之松の子分山毛谷
戸の源太郎中新田の源七高
萩の彌五郎、唐子の音吉、
玉川の權太郎などが茲へ押
して来て俺達に何の沙
汰もなく阿袋さんを抱き込
んで手打をさせるとは俺達
を踏み付けにした仕方だ、
夫故林藏が歸れば助けて置
けねえと慪う云つた」

磯「お前を歸らしたい一心
で林藏は戻つて来て賭場
には足を入れさせぬ百姓に
するからこれを主意に笑つ
てくれろと約束して納つた
定めしお前の心にはすむめ



えが茲は辛抱してくれ
これを聞いて林藏はびつく
りして、
林「それではお父さんは俺
を堅氣にするよ云ひなすつ
たか」
磯「ウムさうだ、おれも追
々老る年で、何うか親子一
緒に一ツ土地に住んぬた

いとそれで慪ういふ約束も
したが、まア勘辨してくれ
林「何故それならそれと伊
勢に來た時に話してくれね
え」
磯「イヤその事をいふとお
前が歸るまいと思ひ、それ
で今迄かくしてゐた」
林「おとつさん、お前さん
も大層老練したな」
と云つたが考へて見るとこ
れも親慈悲とは云へ血を流
して拵へた細張を捨て、命
惜さに林藏が堅氣になつた
と云はれては今迄賣つた男
がすたる、アア飛んだ事
になつた、しかし親父の餘

命も三四年辛抱して百
姓となり親父を慰めた後
に元の博奕打にならうと慪
う決心して、
林「おとつさんそれはどま
でに高萩身内と約束した以
上は今日から堅氣になりま
せう」
磯「承知し、れたかア

有難い」
林「何うも、こいつも災難
だな、まアま仕方がねえ鋤
鎌を持つことにしませう」
磯五郎は大喜び、それで林
藏には別に家を持たせて田
地と畑を分けて遣り表には
草鞋などを吊るして荒物を
賣らした、しかし林藏は心
から堅氣になる氣はない、
親父が死んだならばモウ一
度乗り出す所存、それゆえ
駒ははなしません、この駒
と云ふは、賭場に用ふる器
械、これを子分に譲らねば
堅氣になつたとは云へない
まだ譲られた子分は親分の
後を相續した、これが證據
となる、そこで駒開きと申
す彼等社會にも儀式もござ
います、さう云ふわけで駒
はもつとも大切にするので
その駒を林藏が放しません
デ其の年の十一月の事でご
ざいますが近所へ碁を打ち
に行つて日暮方に歸つて來
た林藏、
林「おかのや明く灯をつけ
ろ、大層暗いじやねえか」
か「親分さんお歸んなさい
まし」
林「親分じやアねえ、今は
新家の若旦那だ」
か「さうでございましてね
林「さあ早く灯をつけろ、
俺はこの暗いのは大嫌ひだ
何うも陰氣も叶けねえ」
雇ひ婆あさんが灯をつける
爐はたに安坐してバク／＼
蓑をのみながら表を見てお
る家の内は暗いが表はまだ
薄明るい前をスタ／＼三
人連れで下へ行く旅人があ
る、いづれも木綿の引廻し

合羽に足拵へも嚴重にして
菅の笠を頂き合羽の裾から
銀拵への脇差が見える。
林「旅人だな、長脇差らし
い、何處へ行くか」
と見送つてゐた、するとこ
の前を七八間通り過ぎたが
一人が戻つて來て、
○「少々伺ひます、林藏親
分のお住居はこちらでござ
いますか」
林「藤藏ぢやアねえか」
藤「コレハ親分此處にお在
でなさいましたか、オイ皆
さん親分の家はこゝだ」

時計眼鏡
トキワヤ
平一・電三九

市原醫院
平町田町
電話一四番

漆器は共專門が
品質の正確と!!!
値段の破格と!!!
在庫品豊富と!!!
懸命の奉仕は!!!
弊店のモットー!!!
丸共共榮漆器店
平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)
記念表彰品 進物贈答品
恩賜賞與品 賞品景品類 御注文應調製
◎店員募集(十三四才より二十三才まで)

花外科專門
木村外科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇九番
■入院自炊の便あり

中村齒科醫院
平町鍛冶町七

お醤油は ヤマフル
醤油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品

鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町(電話營業部二階工場三)
明治生命塔城代理店 山崎與三郎